

番組審議会 第645回

開催日 令和3年1月18日(月)

■委員の出席

委員総数 10名
出席委員数 10名

出席者

委員長	音	好	宏		
副委員長	中	江	有	里	
委員	江	澤	佐	知子	尾 縣 貢
	萱	野	稔	人	喜田村 洋 一
	佐	藤	智	恵	長 嶋 有
	藤	原	帰	一	水無田 気 流

TBSテレビ	佐々木	社 長
	渡 辺	常務取締役
	伊佐野	常務取締役
	岩 田	取締役
	瀬戸口	編成局長
	竹 内	報道局長
	武 石	報道局局次長
	谷 上	制作プロデューサー・総合演出
	鳶	番組プロデューサー
	中 山	編成考査局長
	鈴 木	編成考査局視聴者サービス部長
	天 野	番組審議会事務局長

■議事概要

(1) 審議事項

- 1) 「報道の日2020 激動の21世紀 ～米中、そして日本」
12月30日(水) 11:11～11:55 及び
13:30～15:55 放送分について
- 2) その他

(2) 事務局報告事項

- 1) 視聴者からの声について
- 2) 次回審議会の議題及び日程について

【委員の主な意見】

(「報道の日2020」について)

□経済力の拡大を中心に、世界における中国のプレゼンスが拡大していくのを、時系列的に追った。非常に意義深い、年末ということや、今年ということを見ると、非常にスケールが大きく、まとまりが良い番組だった。

□米中対立と、中国の台頭の過程をたどることによって、日本に警鐘を鳴らしたかったという制作者の思いが、番組全体から、非常に伝わってきた。秀逸だったのは、視聴者が、このニュースの舞台裏ではこういうことが起こっているのではないかと、推測していたことの真相を、ファクトをもって伝えてくれたところだ。

□様々なファクトを示したあとに、多くの、存在感のある証言者によって、現在に明瞭につなげているところが素晴らしいと思った。同時に、今後どうすべきかという視聴者に対する問いかけが行われているところも、高く評価する。

□21世紀の超大国アメリカと、新興の、覇権を持っているのか、それとも超大国になろうとしているのかは別としての中国。そのはざまに、人口も少なく、会社の時価総額のベストテンから消えてしまったような日本が、どうやって生きていけばいいのかということを提示する、非常に面白い番組だった。

□報道番組としては、本当に久しぶりに強い衝撃を受けた。
米中のある事実をわかりやすく、しかも深く説明していて、

国際政治に余り関心がない人も、興味を持って視ることができたのではないか。

□米中の対立の下に何があったのか。21世紀の中国の台頭を振り返る、歴史を紐解く構成はよかった。しかし、ゆったり見るところが全くなかった。せっかく内容がよくても、これだけ長時間の番組なので、3日間くらいに分けた方がよかったのではないか。

□政治的な場面で、国際的に動いた中国のことをたくさん見せてくれた。一方で、すごく素朴に、中国人は何を考えているのか、気になった。市民が街頭でどんなことを言うのか、政治の重要な局面に立ち会った人たちの言葉と同じぐらい等価なものとして、もっと聞いてみたい。

□報道番組としては、異例の長時間にわたる年末の特別番組だ。メッセージ性が非常に強かった。そのメッセージにつながる情報を、点々と配置した内容だった。あえて指摘すると、細かいことを省いた、点と点をつなぐことは、結果的には現実から離れた、誇張された議論の背景になってしまう可能性があるのではないか。

□最近の中国の脅威をやや強く出しているところがあったが、その部分は、スタジオコメンテーターがファクトでカバーしていた。バランスに注意しながら番組づくりをしていることがわかった。非常によく編成された番組で、評価したい。

□米中対立、覇権争いは、長期的な構造転換に関わる問題だ。腰を据えてテレビでなかなか報道しづらいテーマだと思うが、年末の報道番組、6時間を使って本格的に取り組んだことは、大きな意義があったと思う。

* TBSでは番組審議会委員のご意見を真摯に受け止め、今後の番組内容の向上に活かしていく所存です。 (TBSテレビ番組審議会事務局)